

私立大学研究ブランディング事業

平成28年度の進捗状況

学校法人番号	131039	学校法人名	専修大学		
大学名	石巻専修大学				
事業名	震災復興から地域資源の新結合による産業創出へ - 草葉起源による内水面養殖業の創出 -				
申請タイプ	タイプA	支援期間	3年	収容定員	1760人
参画組織	理工学部、経営学部、人間学部、共創研究センター				
事業概要	震災未利用地等において栽培の草葉を起源とした餌料生産によって、循環型内水面養殖の確立を目指す。生物・環境・情報工学の融合により新たな養殖法を開発し、経営学や人間学の視点も取り入れて事業化や人材育成に繋げるもので、震災復興に資すると共に地域の産業や雇用創出も期待できる。地域資源に着目し新たな結合によって産業創出等へ繋げていく研究は、被災地に在る大学としての使命であり、今後とも堅持すべき独自色でもある。				
①事業目的	本事業の目的は、地域が直面する様々な課題等に対して、本学で行われている理工学・社会科学・人文科学の研究活動を横断的に結び、基礎的な試験、開発、調査結果等に基づき、新しい技術や知識を体系化させ、地域特性を活かした産業創出に向けた育成や展開が期待できる研究として発展させることである。				
②平成28年度の実施目標及び実施計画	<p>【実施目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1研究グループ(内水面養殖システムの構築): <ul style="list-style-type: none"> ・効率的タンパク生産へつながる生態系利用変換システムの検証と付加価値の高い魚介類生産に向けた餌料の生産条件の整理。 ○第2研究グループ(流通とマーケティングの確立): <ul style="list-style-type: none"> ・養殖魚介類における市場性確立のための要件の把握。 ○第3研究グループ(研修システムの確立): <ul style="list-style-type: none"> ・研修システム確立のための効率的な研究手法の確定。 <p>【実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1研究グループ: <ul style="list-style-type: none"> ・魚介類養殖生産における魚介類嗜好に合う植物選定。 ・1次生産から上位生物への変換効率を指標とした餌料生産。 ・餌料特性の把握から「好みの餌」の情報整理。 ・次年度へ向けた水槽開発の詳細計算・設計。 ○第2研究グループ: <ul style="list-style-type: none"> ・養殖魚の市場性確立のための要件を文献調査により整理 ・養殖先進地域の視察調査。 ○第3研究グループ: <ul style="list-style-type: none"> ・研修システムの基礎情報の整理・検討と雇用創出等の方向を探るための視察調査。 				
③平成28年度の事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ○第1研究グループ: <ul style="list-style-type: none"> ・魚介類に適した餌料用植物の適正評価を行った。 ・1次生産から餌料生産に向けた上位生物への変換方式の検討を行った(湿式処理システム開発に関して)。 ・養殖用水槽開発の検討(波と流れ・溶存酸素供給方式の検討、養殖環境の水質・流れ制御に向けた検討)を行った。 ○第2研究グループ: <ul style="list-style-type: none"> ・文献調査(先行研究、先行調査報告書等の文献調査による市場性確立のための要件精査)を行った。 ・先進地域の視察調査を行った(岩手大学三陸水産研究センター視察及びインタビュー調査) ○第3研究グループ: <ul style="list-style-type: none"> ・研修システムの基礎情報の整理のための検討(事業全体の可視化の検討、等)を行った。 ・情報収集のための出張調査を行った(福島県立図書館)。 				

<p>④平成28年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 研究ブランディング事業は、共創研究センターの研究プロジェクトとして位置づけた。センターでは個別機関としての自己点検・評価活動を毎年行い、それらを自己点検・評価全学委員会が全学的な報告書としてまとめ評価・検証し、さらに外部の有識者で構成する自己点検・評価専門委員会(外部評価委員会)にも諮るサイクルとしている。また、研究ブランディング事業に関しては、こうした既存の仕組みに加えて、研究プロジェクトの評価に関するルールに則り、学外委員2名を加えて研究評価も行うこととしている。こうした体制で対応することとしているが、平成28年度のPDCAサイクルにはスタート時期の関係からタイミングが合わず、部分的な対応となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年12月26日「平成28年度石巻専修大学自己点検・評価専門委員会(外部評価委員会)」:(※外部評価の欄参照) ・平成29年5月19日に共創研究センターでは、自己点検・評価全学委員会に個別機関としての平成28年度報告書を提出した。この中で、研究ブランディング事業については、計画が遅れ気味であること、全体の連絡をより密にする必要があること等の指摘が挙げられた。 <p>(外部評価) ・平成28年12月22日「平成28年度第3回共創研究センター運営委員会」:研究プロジェクトの評価に関するルールに則り、学内委員に学外委員2名を加えて事前評価が行われ、特に事業採択の遅れに伴い今後の工程管理が肝心との意見が出された。 [学外委員:東松島市産業部、(株)テクノプラザみやぎ、各1名]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年12月26日「平成28年度石巻専修大学自己点検・評価専門委員会(外部評価委員会)」:5名の外部評価委員出席の下、平成27年度の自己点検・評価報告書についての説明が行われた。併せて、研究ブランディング事業の概要等の報告も行われ、委員会から今後の研究進展への期待が表明された。 [外部評価委員:石巻市長、仙台白百合女子大学学長、石巻信用金庫理事長、石巻専修大学名誉教授、石巻専修大学同窓会会長] ・平成29年5月19日に共創研究センターでは、自己点検・評価全学委員会に個別機関としての平成28年度報告書を提出した。この中で、研究ブランディング事業については、計画が遅れ気味であること、全体の連絡をより密にする必要があること等の指摘が出された。 ・平成29年5月10日「平成29年度第1回共創研究センター運営委員会」:学内委員に学外委員2名を加えて、大型養殖水槽の業者を選定したこと等、平成28年度の事業報告が行われた。この中で、学外委員から計画へ遅れが出ないように全体の連携を密にするべきとの意見が出された。
<p>⑤平成28年度の補助金の使用状況</p>	<p>○研究費:自走式カッター、流速センサー、研究データ処理用パソコン、pH計、粉碎機、エアープンプ、ガラス器具、化学薬品、電子部品、研究資料、調査研究旅費等</p>